

## アイヌ衣服の構成と縫製について (第2報)

○日野伊久子\* 村井不二子\* 菊地美知子\*\* 谷井 淑子\*\*  
 ( \* 昭和女大 , \*\* 昭和女大短大 )

目的：前報では、アイヌ衣服63点の実物調査の概要について報告した。今回は、調査資料の中からアイヌ民族の代表的な衣服であるアツシ5点を対象に、衣服の構成や寸法、縫製技術について実測調査の結果を報告する。

方法：衣服の形状については、身丈、袖、襟、襷の有無などの構成特徴を記録する。衣服各部位の計測には、布幅も加えて調査項目を11から14とし実測値を求める。縫製の調査は、縫合部、始末法の手法、縫い糸の種類や針目数との関係については、5cmを単位とした針目数を観察し技法の巧緻性を判断する。

結果：アツシ5点は、いずれもひとえ仕立てである。形状は、和服の半纏に近似し、直線裁ちで、身丈は対丈である。袖は、筒袖3点、もじり袖2点。襟は、後ろ襟に掛け襟付きが3点、後ろ襟のみが2点。襷付きは無い。寸法については、着用者の体型によって異なるが、身丈は、107.5cmから129.0cm。袖幅は29.0cmから31.8cm。肩幅は、29.0cmから32.0cm。襟肩明きは、7.5cmから9.5cm、などである。また、実測値に左右差がみられた。縫製は、すべて手縫いである。縫合部は、並縫い、かがり縫いで、針目には粗密があり技術の巧拙が観察された。